

JICA東京が草の根技術協力事業として実施しているベトナムハイフォン市研修員6名の受け入れを実施。

ハイフォン市都市環境整備にかかる環境教育・普及啓発プロジェクト本邦研修

食品リサイクル工場レポート
2015年6月2日(火)



研修後の記念撮影

独立行政法人国際協力機構(JICA)が実施する「草の根技術協力事業」の本邦研修として、日本環境教育フォーラム(JEEF)の協力の基、ハイフォン市でゴミの減量に関する環境教育・普及啓発推進に関係する行政担当者・NGO職員らが来日しました。ハイフォン市(人口約170万人)は近年の経済発展に伴う生活水準の向上と人口増加が進み、廃棄物が増加。市民のゴミ出しの意識の低さによる路上投棄、定期回収の順守率の低さによる公衆衛生が悪化しています。研修で学んだ知識をもとに、環境問題に関わる主な機関を含めたプロジェクトチームによる問題解決につなげていきます。

食品リサイクル工場で研修がスタート！

ハイフォン市人民委員会、ハイフォン市婦人同盟などの6名の研修生がJICA東京国際センター(代々木)からバスで約2時間かけ、ファミリーマートの東京都内約550店の食品廃棄ロスを利用している(有)ブライトピック・溝原工場に(千葉県旭市)へ行き、ファミリーマートの廃棄物の取組み、ブライトピックでの液体飼料(リキッドフィーディング)等について講義を行いその後、豚肉の試食、工場見学を行いました。

— 研修生のみなさんより、ファミリーマートの取組みについて感想—

- ・フォンさん: 企業が密接に連携している。見習ってきたい。
- ・カイさん: 工場のシステムが素晴らしい。
- ・ユアさん: 廃棄物を利用して利益を出す仕組みがすごい。ベトナムでも実施出来れば。
- ・カインさん: 研修ではお世話になりました。来て見て取組みが理解できた。



スライドでの講義を受講中。



工場内を視察する研修生の皆さん。臭いに閉口。



液体飼料(リキッドフィーディング)を食べる豚。



ハイフォン市のゴミの不法投棄。



東京都内の店舗より運びこまれた食品残渣の一部



液体飼料で育てた豚肉の試食。研修生には大人気！